

第1回下川町林業振興審議会 会議録

日 時 令和5年2月17日（金）午後7時～午後9時

場 所 役場4階中会議室

出席者 板橋太郎会長、麻生翼委員、越智光司委員、杉野諒輔委員、田中由紀子委員
田邊真理恵委員、三津橋弘茂委員

1 開 会

2 下川町林業振興審議会委員委嘱状交付

3 町長挨拶

- ・林業林産業へのご理解ご協力について御礼
- ・来年の3月末までの任期をお願いする
- ・林業林産業者が激減している。事業者の努力を基調としながら、林業林産業支援事業で支援してきた。ウッドショック、円安、ウクライナ進行により木材需要バランスが不安定となっている中だが、林業林産業の在り方、経営改善など委員の積極的な発言を期待する。

4 会長・副会長選出

会長に板橋太郎委員、副会長に三津橋弘茂委員に決定

5 会長挨拶

- ・前は1期目で分からないこと多かったが、2期目は経験をもとに良い審議会にしたい。
- ・情勢が変わり制度を変える必要があるので、積極的な意見をお願いしたい。

6 諮問

- ・町長から会長に下記の諮問を行った。
「林業・林産業の課題解決に向けた今後の施策について」

7 議案

(1) 審議会審議内容・スケジュール

- ・資料3に基づき説明

事務局：時間がいないため集中的な議論が必要。令和6年度から新たな施策が始まるので、求められている施策を考えてもらいながらご意見いただきたい。

会長：1年間で答申まで行く必要があるため、気合を入れてお願いしたい。答申を考えるにあたり、委員自身で考えてもらうのと、地域の事業者の意見をヒアリングするので、

そこからの意見を元に答申を考える。そのヒアリング業者はどこか。

事務局：林業林産業を営んでいる8社9工場を予定。

会長：振興事業は今までやってきている内容があって、予算の規模やあらかじめの枠はあるか。

事務局：令和5年度は現状と変わらない。

事務局：令和5年度の予算査定中で3,000万円の予定。過去に現町長が5,000万円から3,000万円に予算を変更している経緯があるため、このままいくと思う。

委員：審議会は林業振興基本条例について反映できる内容を議論が限定されるのか、幅広い意見を審議してよいか。

事務局：町の施策や課題についても議論して答申に活かす。

(2) 前審議会の審議経過について

・資料4に基づき説明

委員：事業体への具体的な支援策は。オンラインイベントサロンはどのようなものか。結果は。地域材利用方針の改正はどう変わるか。

事務局：地域材利用方針は北海道で基本方針がある。変更があると市町村も変更される。木材を利用することを規定している。具体的な中身は手元にない。事業体への支援は下川製箸への事業承継のお手伝い等の調整を行った。令和5年度は予算がないが、廃業話も聞くので事業承継できるように調整したい。

事務局：人的支援事業、農業と林業について事業協同組合に委託している。オンラインサロンはこれから実施する。イベントは「リレフェス」というイベントに参加し下川町をPRし、比較的若い方に下川町のことを話した。イベント趣旨が仕事でなかったため、薄く広い話をした。2月26日にオンラインでイベントを主催する。

(3) 下川町の林業・林産業の状況について

・資料5に基づき説明

委員：製造品のその他にきのこは入っているか。

事務局：その他は炭やエッセンシャルオイルで、キノコは入っていない。

委員：数字から審議会で課題を見つけて議論するのは難しい。スケジュールを見るとこれからアンケートをとり、政策について議論すると思うが、こういった質問項目でアンケート調査をしたか。これから聞くのであれば、この場で聞く項目を決めた方が議論の材料になるのではないか。

事務局：コロナ渦ということで、影響や事業の経営状況、要望事項をアンケートした。

委員：直接も会って話した方が、悩みを聞き取りやすいと思う。ヒアリングで出てきた課題、人手不足、高齢化、町外通勤者、なぜ、それを解決したいのかまで見えてくると、何

が必要かの話がしやすいと感じた。

事務局：アンケートよりヒアリングの方が話は進むと思うので、ヒアリングでいけるか検討したい。

委員：町として人材不足が課題であれば、それについて聞いてみたり、アンケート項目に入れてみたりすると、意見がしやすい。

事務局：アンケートだけでなくヒアリングもやった方が、年によって課題も変わるので毎年実施できるように検討したい。

委員：次回の審議には間に合うか。

事務局：時間がタイトなので次回までは厳しいと思う。

会長：誰が聞きに行くのか。

事務局：課長と主幹が行く。

委員：アンケート調査と事業者ヒアリングの内容は違うものか。

事務局：アンケートの方が早くできる。

委員：ヒアリングを直接やっていないが、ヒアリングは深堀ができる、コロナでウッドショックが起きたが、ヒアリングを実施したことで緊急的な支援を実施できた。ヒアリングは時勢に応じた対策が可能なのでやっていきたい。アンケートは毎年同じような項目を聞くのがアンケートになる。項目を変えると経年変化が見えなくなるため、このままいきたい。

委員：アンケートとヒアリングの時期が離れているので、アンケートは定形、その他では悩んでいることを記入。次期、審議会でその結果を話して、その結果をヒアリングで聞けると審議しやすくなる。2段階で聞けると良い。

事務局：項目を増やすことは可能。

会長：アンケートはまだ送っていないか。

事務局：送っていない。

(4) 森林総合産業の構築に向けた取り組み状況について

・事務局からスマート林業の取組みについて説明

委員：下川ではいつ実現できるか。

事務局：町だけでの実現は難しい。他地域とのやりとりもある。横展開していかないと全部は変わらない。あと、5年くらいで変わってほしい。

委員：5年では難しいと思う。

会長：現場は寸検入れたくないと思っている。

委員：ICT ハーベスタの材積検知精度は。

事務局：人間に比べて97%。

委員：信じてもらえるか。

事務局：現状の2センチ括約との検証が必要。

委員：町内で一部の取組みから始められるか。

事務局：相対でやり取りは始められる。機械の設定や動きに癖があるため、技術革新が必要。山側が若くて工場も若くても運送が高齢者だと上手くいかないこともある。

(5) 地域林業・林産業の状況、課題等について

会長：各委員が携わっている業界の状況について、物価高騰やコロナの影響はどうなっているか。森林組合は物価高騰、燃料価格や資材価格の上昇はかなり影響がある。ただし、丸太価格が上がっているため、結果として困っていない。仕事面ではコロナの影響なく順調で例年通り仕事ある。退職する人もいるが、4月から1名増える。どうしても人手に頼る仕事は期間中に終わらせる必要があるため、造林関係の仕事は増やせないと思う。省力化して少ない人数で植えられるように工夫しないといけない。

委員：組合と同じく影響少ない。順調にできている。

委員：会長と同じく、これから先の造林は人がいないと事業量は増やせないと感じている。少ない人で仕事量を維持、増やすのは今後の課題と感じている。

委員：製材工場はウッドショックから始まり、仕事は万度にあり仕事量は落ちていない。ただし、構造用集成材はだめ、今月の半分は休んでいる状況。プレカット工場は住宅の注文が少ない状況。

委員：コロナの影響でリアル店舗は落ちたが、WEBに流れたため、売り上げの変化はなかった。現在、リアル店舗が復活したが販促活動はもどっていない。リアルな販促活動はなくても良かった。オンラインでのやり取りがスタンダードになり、商談もオンラインになっている。効率が上がるが、これまでから売り上げを変える必要がある。現在、人を募集している、10年ぶりに求人。オンライン化が進んでいる。人材が以前と違う。今後の下川の林業界を考えると若い世代のことをどこまで汲み取るか。昔は給料を聞く前に熱い思いを聞いていたが、現状の下川自体にビジョンがみえていないのではないか。数あるうちの1つの求人になっている。北森カレッジの実習も受け入れたが、すでに就職が決まっている。ビジョンを描くのは条件だけでなく林産業界がわくわくできるのが重要、いかに想いをたくさん描いてくれる人を集められるか。

委員：ネットの場合、匂いや使用感が伝わらないのでは。

委員：背景やブランドイメージ、下川がやっていることを理解してもらおう。商品説明もかなり書く。勝手に想像してわくわくしてもらおう。8割卸し販売、各地の取り扱い店で匂いをかいでいる。

委員：落ちてはない。ここ2年、ナラが高くなっている影響もあり、旭川の家具業者から材料を買わせてもらえないかと問い合わせがあるが、原板の販売は町外にしていないと断っている。原板は利幅が少ないので町内の販売に限定している。ゼロエミッション

ンの取組みを広葉樹でも実現できるようにしていきたい。丸太で売るのは大事だが、これを町内で付加価値を高めようと思えることが、先々の下川の強みになると思う。ゼロカーボン計画の委員もしている。世界的な動きを勉強している。アドバイザーの枝広氏、3つの原則を紹介。1つ目はCO₂を実質ゼロにする、2つ目大気中にあるCO₂を除去、どの林班でどの程度吸収したかわかると強みになる、3つ目は固定化されたCO₂が固定化し続ける、建築関係町内で多くやっているが固定し続ける産業が多い。下川全体で固定されている製品がどの程度か材積で示していければ。炭を農地にまくとクレジットになる、これまでやってきた炭を見直すと可能性がある。実際は難しいこともあると思うが。また、生物多様性を企業が本気で取り組む必要がある、数値化しにくい、森の生物多様性、こういう生物多様性があると示せば強みになりと思う。

委員：今までの林業審議会や町の他の委員会に参加しても、林業・林産業の人材不足は課題として挙がっている。町有林の植える、伐る量を増やしていきたいとのことだが、働く人がいないと増やすこともできないため、改めて大きな課題だと思う。森林環境教育に関わっているが、子どもたちが考える町づくりには必ず森林が出てくるし、中学校で行われたアンケート「下川町の誇れるところは？」の答えにも、森林という答えが多かったと聞いている。これは下川町の財産だなと思っている。

会長：今日はそれぞれに状況を聞いた。来月中にもう1回開催するが、その時まで意見を考えていただき、次回開催したい。

8 閉会